

## 金沢箔の橋銘板への活用について

前回の委員会において、金沢らしさを表現する方法として橋銘板に「金沢箔」を活用することが提案されました。

金箔をアクセントとして際立たせるためには、濃い色彩との組み合わせが望ましいことから「こげ茶色」を採用することとし、また、最外枠は橋本体の色彩と同色として、下記に示す組み合わせパターンについて検討を行いました。

なお、参考案として、最外枠を側縦桁に配色されている色とした場合についても検討を行いました（右図参照）。



### 参考案

（第1案をベースに、最外枠を側縦桁に配色されている色とした場合）

<p>第1案 (文字をこげ茶色、地を金としたパターン)</p>	<p>第2案 (第1案をベースに内枠をこげ茶色としたパターン)</p>	<p>第3案 (文字および内枠を金、地をこげ茶色としたパターン)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・凹凸のある内側枠にも金箔を施し、光の加減による陰影が楽しめます。</li> <li>・明るめに見えるため、比較3案の中では橋本体の色彩と馴染んで見えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凹凸のある内側枠を「こげ茶色」とする</li> <li>・文字の周囲を縁取ることにより、引き締まった感じになります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2案を反転させ、文字等を浮き立たせた案です。</li> <li>・橋本体の色と対比して、重厚さが増してより際だって見えます。</li> </ul>

	第1案 (文字をこげ茶色、地を金としたパターン)	第2案 (第1案をベースに内枠をこげ茶色としたパターン)	第3案 (文字および内枠を金、地をこげ茶色としたパターン)
青緑系 (第1案)			
青系 (第2案)			
紫系 (第3案)			

## 金箔の犀川大橋への適用可能性について

屋外の金箔処理は、神社仏閣のモニュメント等、一部では行われているようです。(本橋周辺では、本頁右下の2事例があります) 本橋への適用可能性については、基本的に「可能」です。しかしながら、現地での下地処理・箔接着が極めて困難で精度を欠くことから、以下の条件において、実現可能性があると考えられます。

### ●条件

- ・金箔を設置する部分を取り外し、工場等屋内で金箔工、下地処理を行うこと。

### ●可能対象

- ・部分的に取り外しが可能な「橋銘板」のみを対象とします。  
(※上部の高欄については、取り外し不可のため対象外としました。)

### ●その他留意すべきこと

- ・金箔をアクセントとして際立たせる為には、背景が濃い色彩がよい。
- ・金属下地に剥離が発生しないよう、ケレン除去等を入念に行う必要あり。
- ・下地色彩や平滑処理で金箔の発色が異なる。
- ・屋外であれば、紫外線対策を施した方が長持ちする。
- ・車道（ドライバー）への照返しが気になるが、マット仕上げ等加工技術は多様。

## 銘板の筆者について

銘板左下には「久一書」と記されています。これは、大正13年、すなわち竣工当時の石川県知事「長谷川久一氏」が書かれた由緒あるもので、今日まで大切に受け継がれてきたものです。

色彩の変遷について、右に示しておりますが、「白地に黒文字」「薄い青地に金文字」など様々であったようです。



白色クリーム系（昭和50年～昭和59年）



黄緑系（昭和59年～平成5年）※新聞カラー版より



青色グラデーション系（平成5年～現在）※平成12年撮影



金箔見本と現況の関係（絵柄に使用されているような反射の鈍い加工も可能です）



金箔活用事例（1）鳳鳴橋（ほうめいはし、富山県高岡市河原町）下地：銅



金箔活用事例（2）雪吊りモニュメント（むさし交差点エムザ前）下地：樹脂